

第 37 回黒部市公共交通戦略推進協議会報告事項及び協議事項に対するご意見とその回答について

○報告事項に対するご意見とその回答

報告事項	ご意見	回答
(2) 路線バス事業の収支状況について資料2	<p>村椿地域の現状は、生地を中心とした路線バスが3路線運行していますが、バス停は生地駅、吉田地内、飯沢地内となっており、荒俣、飛騨、六天、出島地区では、路線バスが利用できません。</p> <p>デマンドタクシーも週3日運行なので、運行日数を増やしてほしい。</p>	<p>村椿地内については、生地駅周辺に路線バスが集中しており、その他の地域については、デマンドタクシー利用となっている現状があります。</p> <p>デマンドタクシーについては、現在、隔日で村椿・大布施、・荻生地内と田家・前沢地内と運行しております。</p> <p>運行日数の増については、難しい状況ではありますが、地域の要望については、今後の課題として、運行事業者と共有し、検討してまいります。</p>
(2) 路線バス事業の収支状況について資料2	<p>収支状況について、計8路線、全線赤字であることが大きな課題で、運賃収入に対し、運行経費が約6倍もかかっている。</p> <p>さらにデマンドタクシーについては、利用者1人あたりの収支(赤字額)が大きいのが課題である。</p>	<p>市内路線バスの運賃は、利便性重視の観点から概ね200円～300円となっており、運賃収入を以て、運行経費を賄える状態ではありません。その部分については、行政と民間企業で支援しております。</p> <p>しかしながら、現状の収支は改善すべき課題であり、そのためにも利用動態に合わせて、恒常的に路線を検証し、必要に応じて、ルート、便数等の見直しを行なってまいります。</p>
(2) 路線バス事業の収支状況について資料2	<p>路線バス事業を含めた地域公共交通の収支改善については、コロナ禍や燃料高騰などから、計画通りにいかないと感じております。</p>	<p>コロナ禍や燃料高騰により、公共交通を取り巻く状況は大きく変化しましたが、公共交通は市民の大事な移動手段であることから、厳しい状況下においても、支援を続けつつ、路線の恒常的な検証を行い、少しでも収支の改善を図る努力を続けてまいります。</p>
(2) 路線バス事業の収支状況について資料2	<p>路線バス事業の収支における収支率を改善するための対策が必要と思われる。</p> <p>例えば、時間帯による運行本数や利用される住民が多いルートへの変更、また降車バス停の自由化などの工夫を考えてほしい。</p>	<p>時間帯による運行本数や利用が多く見込めるルートへの変更、さらに降車バス停の自由化等については、収支改善に向けた取組みとして、検討することは可能であると考えております。</p> <p>一方で、こうした取組みは、乗務員確保やフリー乗降に対するバスの改造及び区間の検討など多くが運行事業者の所管事項であり、今後も運行事業者と協議してまいります。</p>

報告事項	ご意見	回答
(2) 路線バス事業の収支状況について資料2	運行ルートの見直し策として、乗車されないバス停の見直しを検討して頂きたい。	運行ルートの見直しに際し、乗車されないバス停の統廃合については、検討を行います。
(2) 路線バス事業の収支状況について資料2	収支率について、3割～4割を確保できないのであれば、電話等スポットでのデマンドタクシーやコミュニティバスへの対応をさらに推進してはどうか。	現在、市内路線においては、コロナ禍の影響で南北循環線以外、収支率は3割以下となっております。収支率が芳しくない路線は、まず車両の小型化や巡回ルート導入によるコミュニティバス化、さらにそれでも利用が見込めない場合は、事業者に改善策の提案を求めた上で、予約式（デマンドタクシー）による運行について、検討してまいります。
(4) 路線バス動態調査について資料4	路線バス動態調査について、運行時間帯、利用者の実態、目的、年齢層などの調査をする必要があるのではないかと。運行している8路線については、どのような車種、定員数なのか資料では記載されてなく、そういう情報面のPRが不足している。	利用目的、年齢の実態については、令和4年11月7日～25日で調査し、第38回協議会で報告予定としております。今年度は全て小型車両路線のため、車種、定員数の記載は省略いたしました。なお、利用者向けの時刻表等については、小型・中型の運行車両種別、概ねの定員数の情報は記載しております。
(4) 路線バス動態調査について資料4	路線バス動態調査に関しては、乗降記録を基に、もう少し詳しい分析ができないか、例えば、便数別の乗降数や収支計算などができないか、確認したい。	便数別の乗降数については、路線によりデータがある路線とない路線があります。データがある路線については、今後、整理してまいります。便数別の収支につきましては、運行事業者により積算方法が異なるなどの課題があります。現在は全体経費を便数で割返しした平均値しか算出できないと考えております。原則、現金での支払いであることや回数券の利用もあることから、運行事業者と工夫ができないか、相談してまいります。

報告事項	ご意見	回答
<p>(6) 地域公共交通計画について資料6</p>	<p>1年前倒しで「地域公共交通計画」に移行する必要があるについては、理解する。</p> <p>個別路線の利用者数や収支指標及び補助事業の必要性を記載することについては、現行計画でそれぞれの運行形態を選定した理由を振り返るとともにその当時の想定と実態の関係を整理してほしい。</p> <p>現行においても需要を満たし、赤字が少なくなる運行形態を選んでいると説明することが望ましい。</p>	<p>「地域公共交通計画」への移行に当たっては、現行計画の検証を行い、想定と実態の整理を行います。</p> <p>また、現行計画においても、一部の路線については、一定の需要を満たし、赤字が少なくなる運行形態を選定していることも説明した上で、「地域公共交通計画」における個別路線の指標等を設定してまいります。</p>
<p>(6) 地域公共交通計画について資料6</p>	<p>路線への直接補助から協議会に対して、補助するという事に代わる事について、具体的に赤字が嵩んだときの対応など、協議会の負担がどう変わるのか、整理して頂きたい。</p>	<p>「地域公共交通計画」への移行に当たっては、赤字額が国庫補助の想定以上になった場合における協議会の負担の変化やその場合の支援の枠組みについても検討してまいります。</p>